



RPA投資効果の測定と改善対策のご提案

－ BPIソリューションによるRPA前後の業務効率化測定 －



株式会社日経統合システム
ソリューション事業本部
RPA推進センター

登壇者自己紹介

名前：野村 明利

所属：株式会社 日経統合システム

ソリューション事業本部 開発グループ RPA推進センター

株式会社 日本経済新聞社 情報技術本部 兼務

経歴：入社以来12年 日経グループの基幹システム、業総務系システムの運用

主にネットワークメンテナンス作業を担当

2018年春～ RPA開発担当へ（それまで開発経験なし）

個人情報：神田で三代続いた鮎屋の息子

趣味は国内外の地ビールを飲んでビールブログの更新

1. 昨年までの振り返りとこれから
2. 現場主導でうまくいっていますか？ 「理想と現実」
3. 改善活動を上手に進めるための役割
4. ツールを活用した改善活動の効果測定
5. 広い視点で働き方改革を実現するために



RPA カオスマップ 2018

2018/12/20

エンジン

代理店

導入支援

掲載数：104

AINOW © AINOW 2018

※ROBOWARE以外のRPA関連のソリューション「AINOW」調べ <http://ainow.ai/rpamap2018/>

理想



業務効率化でコストカットもできて
更に、現場からも感謝されちゃうな



現実



なかなか効果が見えないな



とりあえず毎日自動で「ロボ作成のため」って理由で残業申請してくれるロボ作る



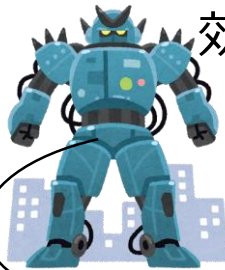


費用対効果まだ？

もう少しお待ちください！



各現場でやってることがバラバラで
効果をどうやって集計したら良いのだろう？



意思決定者

目的は、RPAツールを使うことや自動化ではない、業務効率化、働き方改革。改善活動と結果を評価。

RPA推進役

業務整理をサポート。解決策をアattendしたり、対象システム管理者との調整を行う。

情シス担当

インフラ整備。ガバナンス統制やセキュリティチェック。場合によってはシステム改修も視野に。

RPA作成者

自分以外の人間でもメンテナンスが行えるように資料やエビデンスを残す。

現場担当

既存手順を可視化して、やり方、環境が変わることを前向きにとらえて標準化に協力する。

BPI (Business Process Innovation) サービス デジタル企業変革支援サービス

Consulting

DOビジュアル
業務の可視化

– 業務分析 –

- 業務棚卸
- 業務フロー可視化
- 業務プロセス改善提案

RoboRoid
HIT.S D-Analyzer

利用ツール：RoboRoid-HIT.s、D-Analyzer

Robotic Process Automation

Rpa ロボティック
プロセス
オートメーション
業務の自動化

– 業務プロセスの自動化 –

- ロボットライセンス販売 & サポート
- ロボット導入支援
- ロボットの運用保守

ROBOWARE

Electronic Manual

DOナレッジ
マニュアルの動的化

– 業務ナレッジの共有 –

- 動的（電子）マニュアル作成
- トレーニングツール作成
- eラーニングサイト作成

Dojo

■業務フロー可視化ツール(RoboRoid-HIT.s)の特徴

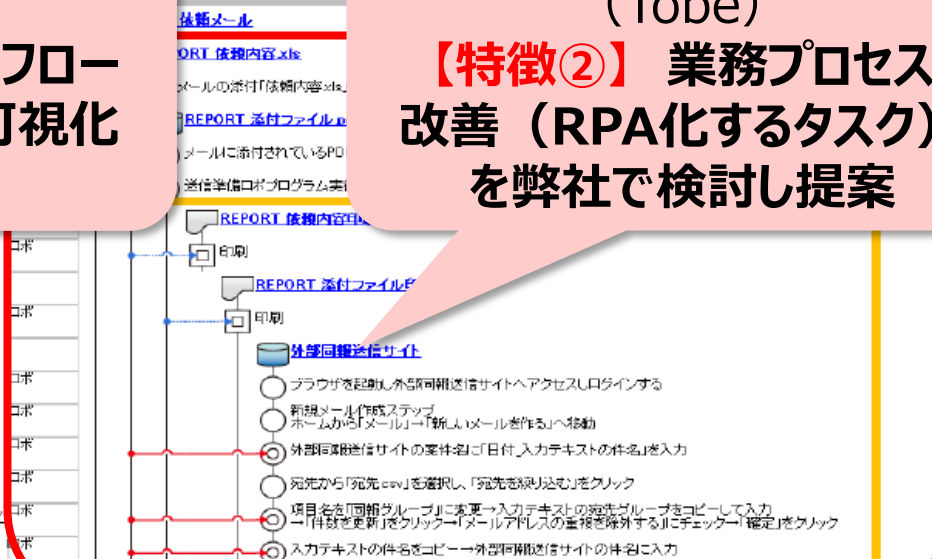
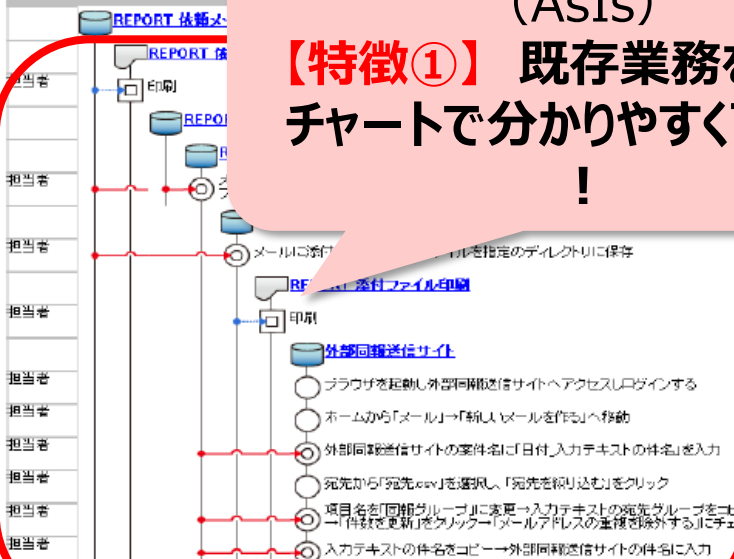
改善提案書

テーマ	システム化による工数削減		作成日	2019年1月28日			
業務名	REPORTメール&FAX送信		所属	ソリューション事業本部開発G			
改善効果	現在	238時間11分	年間作業量	0円	関連部署	ソリューション事業本部開発G	
	改善後	76時間9分	改善区分	0円	部外分担	実施時期	3ヶ月
	削減値	162時間2分	実施予定日	2018/4/23	ステータス	実現難易度	低
問題点	メインの作業者と確認者でほぼ2名分の作業時間がかかっている。人の転記、選択操作が多く、ミス発生リスクが散見される。			改善案	メインの作業をロボ、確認と送信実行を人で行うことで工数削減。人の転記ステップを極力削減し、ミス発生リスク軽減。		

【特徴③】 改善効果予測を数値化！

(AsIs)
【特徴①】 既存業務をフローチャートで分かりやすく可視化！

(ToBe)
【特徴②】 業務プロセス改善 (RPA化するタスク) を弊社で検討し提案



※RoboRoid-HIT.sは、キューアンドエーワークス株式会社が提供するサービスを利用します。

- ✓ 目的を再確認して、明確にしましょう。
自動化、RPAツールを使うことが目的ではない。
効率的に仕事ができるようになったり、時間をより有効に使うため。
- ✓ 業務を可視化、整理、計画、実行、評価して、改善活動を
継続して回していきましょう。
- ✓ 高い効果をあげるなら現場主導では限界がある。
社全体を横断的に調整可能な役割担当と、ツールなどを利用して
客観的な視点が必要。

ご清聴ありがとうございました。

株式会社日経統合システム

ソリューション事業本部 営業グループ

浦谷 (うらや)

E-mail : kazuyoshi.uraya@nex.nikkei.com

TEL : 080-8001-9453

隈元 (くまもと)

E-mail : koichi.kumamoto@nex.nikkei.com

TEL : 080-8001-9336

